

北陸農政局長賞受賞

～健やかで生き生きとした活力あるまちづくり～

受賞者 たきがはら
滝ヶ原町内会

(石川県こまつし小松市)

■ 地域の概要

滝ヶ原は、明治時代に三村が合併してできた^な那谷村の中に含まれた旧滝ヶ原村で、小松市の南西部に位置し、標高 100～500 メートルほどの里山に囲まれた自然豊かな地域である。滝ヶ原町の総人口は 180 人であり、このうち 65 才以上の割合は約 38% を占めている（平成 27 年度国勢調査）。

良質な凝灰岩が採取され、現在 5 つの築 100 年を超えるアーチ型石橋が存在、歴史文化的価値の高いものとして本町の貴重な地域資源となっている。



■ 主なむらづくりの内容

石切場の保全と景観整備・石橋など文化財の保護・イベントの実施を担う団体として平成 9 年に「滝ヶ原ふるさとづくり委員会」が発足、地域の活性化に向けた活動を開始した。

また、地区を代表する^{くらかげやま}鞍掛山の環境保護・周辺の自然環境保全を目的とした「滝ヶ原町鞍掛山を愛する会」が同年に発足、豊かな里山の自然環境を残すため「トンボの楽園」（ビオトープ）の整備等行っている。

更に、廃校となった小学校等を利用した里まなび・山あそびをテーマにした「里山自然学校こまつ滝ヶ原」が平成 26 年に開校、ここを拠点施設とした里山活動を実施している。

平成 29 年には、改修した古民家に首都圏からの若者を受け入れ、草刈などの保全作業を行ってもらい代わりに農作業などの技術指導を行う取組が開始され、古民家を改修した交流施設、カフェ、農泊施設がオープンするなど、町内会が全体を統括する幅広い活動を展開している。



写真 1 アーチ型石橋



写真 2 “トンボの楽園”



写真 3 TAKIGAHARA CAFE